

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帯広大谷短期大学
設置者名	学校法人帯広大谷学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	地域教養学科	夜・通信	2		40	42	7	
	生活科学科	夜・通信			8.5	10.5	7	
	社会福祉科 子ども福祉専攻	夜・通信	2		14	18	7	
	社会福祉科 介護福祉専攻	夜・通信			19	23	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ http://www.oaic.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/09/22496be409badf3e230c0d92125a91cb.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帯広大谷短期大学
設置者名	学校法人帯広大谷学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ http://www.oaic.ac.jp/web_ootani/wp-content/uploads/2013/06/d080821f97e66b01b8bb9a6ac71fee951.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	自営業	令和元年10月2日～ 令和4年10月1日	経営計画の策定
非常勤	(医)理事長	令和元年10月2日～ 令和4年10月1日	経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帯広大谷短期大学
設置者名	学校法人帯広大谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業概要(シラバス)について、当該年度のカリキュラムが確定後の12月下旬頃から、各科目担当者が作成を開始する。作成に当たっては、教務委員会が作成する『シラバス作成要領』に従うこととし、「授業の方法」「単位数」「時間数」「科目概要」「授業計画」「到達目標」「評価方法」「準備学習について」「試験・課題に対するフィードバックの方法」等をWebシラバスシステム上に入力する。教務委員会による点検を経て、3月中旬から下旬までにすべて一般公開することとしている。</p>	
授業計画書の公表方法	ホームページ https://syllabus.oojc.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目について、担当者は、授業概要(シラバス)であらかじめ履修者に提示した「評価方法」(試験やレポート、発表等)に基づき成績評価を行う。算出された評点は、学則の規定に従って「S」から「D」の5段階に表し、「C」以上の評価に対して単位を授与する。さらに、その評点を用いてGPAを算出している。</p> <p>また、学生の学修意欲確認の取り組みとして、前期および後期の成績配布時に合わせ学科担任等による面談を実施しているほか、ひとつの科目を3回欠席した履修学生については、科目担当者から学生の所属学科および事務局教務担当者に連絡し情報が共有され、その後担任等の教員が面談等を実施している。さらに、学科・専攻ごとに到達度確認のシステムを取り入れ実行しているが、一部の学科では、特定の科目を対象として、各学期初めと学期末、学生に「学習成果評価表」を記載してもらい、学修意欲や到達度の確認ができる仕組みを取り入れており、現在、全学科・専攻で統一的なシステム導入を検討している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各学生の履修科目の成績評価に基づきGPAを設定している。GPAは「帯広大谷短期大学グレード・ポイント・アベレージ運用規程」に従って運用を行っており、その算出方法については「一定期間において履修した各授業科目の成績評価に該当するGPに各授業科目の単位数を乗じたポイント数の総和を、総履修単位数で除して得た数値をいう。ただし、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを有効とする。」と規定している。なお、成績、評価、GPの関係は次表のとおり定めている。

成績	評価	GP
100－90点	S	4.00
89－80点	A	3.00
79－70点	B	2.00
69－60点	C	1.00
59－0点	D	0.00

GPAの算出方法については、ホームページで公開するとともに、『学生便覧』で説明しているほか、年度当初のオリエンテーションでは教務委員会より学生に対しての説明を行っている。

学生のGPAについては学務課が一元的に管理しており、GPAを用いた成績分布の状況を表し、学科・専攻単位での学生の順位を学期ごとに把握している。

また、GPAは成績表を通じて学生に通知を行い、学修指導や履修指導の実施、退学勧告の要件等の基準として利用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生便覧、ホームページ <http://www.ojic.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/04/2021handbook.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関する方針として、ディプロマ・ポリシーを学則で定めており、ホームページには、学則の公表の他、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」としても単独で掲載している。また、学生向けには、『学生便覧』に掲載しており、さらに『入学案内』にも記載して広く一般に公表している。

各学科・専攻ではこのディプロマ・ポリシーをふまえカリキュラムを構成し、シラバスを作成し、成績評価を行い、卒業判定を経て短期大学士の学位を授与する。

卒業の要件については、学則で各学科・専攻ごとに教養科目、専門科目の最低取得単位数を規定しており、また、卒業判定に関しては、教務委員会で取得単位数を確認して卒業判定資料を作成し、教学マネジメント会議の承認後、最終的に教授会（卒業判定会議）によって卒業が認定される仕組みである。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

本学では、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与する。

1) 地域教養学科（地域教養）

地域教養学科では、以下に示す能力を身につけ、かつ本学科が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士（地域教養学）の学位を授与する。さらに、本学科が定める資格要件を満たすことにより、学芸員基礎資格、社会教育主事任用資格、図書館司書資格を取得することができる。

(1) 自分の意見をさまざまな文章や口頭表現を使って表現する技術を取得し、豊かに表現できる。

(2) 十勝の自然・歴史、芸術・文化、産業・行政について基本的な知識を習得している。

(3) 日本の芸術・文化に関する知識を備え、芸術・文化に関して表現する技術を身につけている。

(4) 地方の行政や企業の現状と課題について理解し、社会生活において有用な技術や見方を身につけている。

(5) グローバル化の進む国際社会について理解を深め多様な見方を身につけている。

(6) 自分自身の理解を深め、多様な考え方をもっている他者とともに生きる力を身につけている。

(7) 社会的マナー、コミュニケーションやプレゼンテーション、情報処理、ビジネススキル等に関する知識と技能を身につけている。

(8) 自分の興味ある分野に関して大きな視野から問題点を把握し、その問題点に関して幅広い議論を参照しつつ自分の意見を表現し、まとめることができる。

2) 生活科学科栄養士課程（生活科学）

生活科学科栄養士課程では、以下に示す能力を身につけ、かつ本課程が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士（生活科学）の学位を授与する。さらに、本課程が定める資格要件を満たすことにより、栄養士免許、フードスペシャリスト受験資格を取得することができる。

(1) 食物、栄養、健康に関する基本的な知識や技術を身につけている。

(2) 食物、栄養、健康に関する諸問題に対して興味・関心を持ち、これらを主体的に解決しようとする意欲・態度が備えている。

(3) 豊かな人間性と教養およびコミュニケーション能力を身につけ、仕事や諸活動で社会に貢献しようとする姿勢を持っている。

3) 社会福祉科子ども福祉専攻 (社会福祉学)

社会福祉科子ども福祉専攻では、以下に示す能力を身につけ、かつ本専攻が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士(社会福祉学)の学位を授与する。さらに、本専攻が定める要件を満たすことにより、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、社会福祉主事任用資格を取得することができる。

- (1) 児童家庭福祉・保育・幼児教育に関する基本的な理論や知識を身につけている。
- (2) 子どもの心身の健康な発達に関する理論や知識をもとに、子どもの発達に合わせた適切な接し方や援助方法を選ぶことができる。
- (3) 保育内容とその指導法についての基礎的な知識を習得し、遊びなどの具体的な活動を計画することができる。
- (4) 言葉のつかい方、歌や楽器の活用、造形制作の方法、身体技能などの表現の技術を使って、保育に必要な基礎的な表現の活動ができる。
- (5) 教材を研究し、子どもの姿に合わせて活動を工夫しようとする姿勢を備えている。
- (6) 教養を広げるとともに、他者との協調的な関係を通して目標を同じくする者の共同体に貢献しようとする姿勢を持っている。

4) 社会福祉科介護福祉専攻 (社会福祉学)

社会福祉科介護福祉専攻では、以下に示す能力を身に付け、かつ本専攻が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士(社会福祉学)の学位を授与する。さらに、本専攻が定める資格要件を満たすことにより、介護福祉士国家資格(受験資格)、社会福祉主事任用資格を取得することができる。

- (1) 人間や社会に関する知識を身につけている。
- (2) 介護福祉に関する知識及び介護技術を身につけている。
- (3) 人間の心身に関する知識を身につけている。
- (4) 医療的ケアの知識と技術を身につけている。
- (5) 幅広く社会福祉に対する理解や見識が持てる。
- (6) 福祉社会の構築に貢献することができる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧、ホームページ <http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/dpoli.pdf>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帯広大谷短期大学
設置者名	学校法人帯広大谷学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60
収支計算書又は損益計算書	http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60
財産目録	http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60
事業報告書	http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60
監事による監査報告(書)	http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2021(令和3)年度 事業計画 対象年度:2021(令和3)年度)
公表方法: http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60
中長期計画(名称:学校法人帯広大谷学園 中・長期総合計画 対象年度:2014年度~2023年度)
公表方法: http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2013/06/50e4f89d1b2672bfe0beb4b17d5b8886.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.oojc.ac.jp/?page_id=4265

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 地域教養学科
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/oojc-rule.pdf)
(概要) 地域教養学科は、地域を学びのフィールドに文学、文化をはじめ歴史、自然、経済など多様な視点から社会を学ぶことで、多様で重層的なものの見方を身につけ、自らの生き方を主体的に設計し、また、地域社会の活性化に積極的に貢献する教養のある知的な人を養成する。地域教養学科における教養とは、①様々な社会的な能力に先立つ人として備えるべき力、②学問に真摯に取り組むことのできる力、③人としての魅力、豊かさの源となる力である。こうした教養の涵養は多様な価値観が混在する社会状況の中、すべてにわたり冷静に対処できる基礎力となる。 また、自分たちの感性を磨き心豊かな人間性を育てること、学びの対象に対する批判的検討を通じて私達を取り巻いている現代社会というものをとらえ直し、これから生きるうえで必要な幅広い教養と専門職として自立しうる知識を身につけるとともに学習過程においてPDCAサイクルを実践することによって、学ぶ力、社会人基礎力、コミュニケーション能力を持った人となれるよう教育を展開する。 上記に規定した人材においては、人が人として生きることの意味を問い続ける姿勢のうちに〈いのち〉の大切さを感じ、結果、自他のいのち自体をつねに敬意を持って認識する態度が涵養される。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/dpoli.pdf)
(概要) 帯広大谷短期大学は、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与します。 <地域教養学科> 地域教養学科では、以下に示す能力を身につけ、かつ本学科が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士(地域教養学)の学位を授与します。さらに、本学科が定める資格要件を満たすことにより、学芸員基礎資格、社会教育主事任用資格、図書館司書資格を取得することができます。 (1) 自分の意見をさまざまな文章や口頭表現を使って表現する技術を取得し、豊かに表現できる。 (2) 十勝の自然・歴史、芸術・文化、産業・行政について基本的な知識を習得している。 (3) 日本の芸術・文化に関する知識を備え、芸術・文化に関して表現する技術を身につけている。 (4) 地方の行政や企業の現状と課題について理解し、社会生活において有用な技術や見方を身につけている。 (5) グローバル化の進む国際社会について理解を深め、多様な見方を身につけている。 (6) 自分自身の理解を深め、多様な考え方をもっている他者とともに生きる力を身につけている。 (7) 社会的マナー、コミュニケーションやプレゼンテーション、情報処理、ビジネススキル等に関する知識と技能を身につけている。 (8) 自分の興味ある分野に関して大きな視野から問題点を把握し、その問題点に関して幅広い議論を参照しつつ自分の意見を表現し、まとめることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/cpoli.pdf)

(概要)

帯広大谷短期大学では、建学の精神並びに教育理念に基づいた人間を育成する教育環境を提供するために、以下のように教育課程を編成しています。

1. 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために「教養科目」を配置します。また、学生が、専門的な知識と技能を体系的に学び、高度で多様な専門性を身につける「専門科目」を配置し、適切に選択・受講ができることを目指します。

2. 学生が幅広い視野に立ち、現代社会を捉え直すことができる知識と理論を提供する「講義科目」と学生が主体的に学ぶ能力を身につけることで学びを深め、それらを総合的に実践する「演習科目」と「実習科目」の3つを効果的に配置し、本学の目指す人間教育を展開します。

<地域教養学科>

地域教養学科では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教養のある知的な人を養成するため、以下に示す方針によりカリキュラムを編成しています。

(1) 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために共通教養科目（初年次教育、キャリア教育を含む）を設置する。

(2) 地域を教材に多様な教養を身につけること、また、学習並びにコミュニケーションのリテラシーを身につけるために学科教養科目を設置する。

(3) 学生の個々の興味関心にもとづいて、さまざまな専門分野について学び、幅広い教養を身につけるために学科専門科目を設置する。

(4) ビジネスに関する知識と技能、働く体験、情報処理、外国語コミュニケーションについて学び、働く上での基礎知識を身につけるためにキャリアサポート科目を設置する。

(5) 学芸員、社会教育主事、図書館司書に必要な専門知識を深く身につけるとともに社会での実践力を身につけるために資格関連科目を設置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/apoli.pdf>）

(概要)

帯広大谷短期大学は、確かな教養の上に、社会人、職業人として自立し、社会の発展に寄与するとともに、「支えあい共に生きる社会」実現への担い手となる人を育てることを目標としています。

本学では、この目標の実現に向けて多様な入試制度を通して、次のような人を積極的に受け入れます。

- 1 本学の教育を受けるにふさわしい基礎的な学力、適性及び目的意識を持つ人
- 2 自らが、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を求め、高める努力をしようとする人
- 3 地域社会の発展に貢献できるよう、各学科の専門分野の知識や技能・技術を身につけることに意欲を持つ人

●地域教養学科（地域教養）

【求める人間像】

地域教養学科は、地域を担い、文化と経済を活性化する視点と知力と行動力を持った人の育成を目指しています。そのため、次の項目に該当する人を求めています。

1. 社会事象に対する幅広い興味と関心をもつ人
2. 文化への関心や敬意をもつ人
3. 歴史に関心を持ち、過去の事象から現在と未来を考えられる人
4. ヒト・モノ・コトに真摯かつ謙虚に向き合い取り組もうとする人
5. 多様な価値観を認め、協働の社会の形成へ主体的に参加しようとする人
6. 自らのキャリアデザインに主体的に取り組み、自分の成長を社会に還元する意欲をもつ人

初めの3つは主に知識や関心のもち方について、後の3つは主に態度・意欲に関するも

のです。地域教養学科では、講義によりこの知識や関心をさらに伸ばし、演習により思考力を養い、実習やインターンシップにより実践を繰り返すことによって行動力を涵養し地域社会を担っていける人を育成します。

【志願者が入学までに身につけることが望ましい知識、技能、態度等】

求める人間像に示された資質を磨く意識（態度）を常に持ち、また、そのために必要な基礎的学力並びに学習意欲、そして協働の基礎となるコミュニケーション能力を磨く機会に積極的に参画する姿勢を培っておくことです。

学部等名 生活科学科

教育研究上の目的（公表方法：

http://www.oojc.ac.jp/web_ootani/wpcontent/uploads/2013/06/2fc5449a2038162e7b4a47d8144ceb74.pdf)

（概要）

栄養士課程は、栄養士の資格を取得するための教育が基本である。他の資格取得（フードスペシャリスト、家庭料理技能検定）も踏まえつつも、まず、食と健康を支える専門家として必要な基礎的知識と技術をしっかり学ぶ。その上で“広い学び（食文化と作法）”、“深い学び（ゼミナールでの専門性の深化）”、“楽しい学び（多用な調理技術の修得）”、“十勝の学び（地域食材を利用したメニュー開発）”、そして“時代の要請に応える学び（嚙下食、アレルギー、食育）”に取り組むことで卒業後、即戦力となりうる人材の養成を目指すカリキュラムを編成し、さらに課外活動での実践も加えて、その養成を目指している。

以上の課程専門教育を建学の精神に基づき展開することで、科学的な真理探究といのちの大切さ

を考え、ひとりの自立した人間としての成長を願う教育を目標としている。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/dpoli.pdf>)

（概要）

帯広大谷短期大学は、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与します。

<生活科学科>

生活科学科栄養士課程では、以下に示す能力を身につけ、かつ本課程が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士（生活科学）の学位を授与します。さらに、本課程が定める資格要件を満たすことにより、栄養士免許、フードスペシャリスト受験資格を取得することができます。

(1) 食物、栄養、健康に関する基本的な知識や技術を身につけている。

(2) 食物、栄養、健康に関する諸問題に対して興味・関心を持ち、これらを主体的に解決しようとする意欲・態度が備えている。

(3) 豊かな人間性と教養およびコミュニケーション能力を身につけ、仕事や諸活動で社会に貢献しようとする姿勢を持っている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/cpoli.pdf>）

(概要)

帯広大谷短期大学では、建学の精神並びに教育理念に基づいた人間を育成する教育環境を提供するために、以下のように教育課程を編成しています。

1. 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために「教養科目」を配置します。また、学生が、専門的な知識と技能を体系的に学び、高度で多様な専門性を身につける「専門科目」を配置し、適切に選択・受講ができることを目指します。

2. 学生が幅広い視野に立ち、現代社会を捉え直すことができる知識と理論を提供する「講義科目」と学生が主体的に学ぶ能力を身につけることで学びを深め、それらを総合的に実践する「演習科目」と「実習科目」の3つを効果的に配置し、本学の目指す人間教育を展開します。

<生活科学科>

生活科学科栄養士課程では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、食物、栄養、健康に関する知識や技術を身につけた実践力のある人を養成するため、以下に示す方針によりカリキュラムを編成しています。

(1) 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために共通教養科目（初年次教育、キャリア教育を含む）を設置する。

(2) 社会や環境と健康との関係を理解するとともに、保健・医療・福祉・介護システムの概要について修得するために、社会生活と健康に関する科目を設置する。

(3) 人体の仕組みについて構造や機能を理解し、食事、運動、休養などの基本的な生活活動や環境変化に対する人体の適応について修得するために、人体の構造と機能に関する科目を設置する。

(4) 食品の各種成分の栄養特性について理解するとともに、食品の安全性の重要性を認識し、衛生管理の方法について修得するために、食品と衛生に関する科目を設置する。

(5) 栄養とは何か、その意義と栄養素の代謝及び生理的意義を理解するとともに、性、年齢、生活・健康状態等における栄養生理的特徴及び各種疾患における基本的な食事療法について修得するために、栄養と健康に関する科目を設置する。

(6) 個人、集団及び地域レベルでの栄養指導の基本的役割や栄養に関する各種統計について理解し、また基本的な栄養指導の方法について修得するために、栄養の指導に関する科目を設置する。

(7) 給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得するために、給食の運営に関する科目を設置する。

(8) 意欲のある学生の満足度を高め質の高い栄養士を養成するために関連科目を設置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/apoli.pdf>）

(概要)

帯広大谷短期大学は、確かな教養の上に、社会人、職業人として自立し、社会の発展に寄与するとともに、「支えあい共に生きる社会」実現への担い手となる人を育てることを目標としています。

本学では、この目標の実現に向けて多様な入試制度を通して、次のような人を積極的に受け入れます。

- 1 本学の教育を受けるにふさわしい基礎的な学力、適性及び目的意識を持つ人
- 2 自らが、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を求め、高める努力をしようとする人
- 3 地域社会の発展に貢献できるよう、各学科の専門分野の知識や技能・技術を身につけることに意欲を持つ人

●生活科学科栄養士課程（生活科学）

【求める人間像】

生活科学科栄養士課程は、食と栄養に関する専門的な知識と技術を有し、健康管理の充

実、食産業の発展や食文化の継承等で地域社会を支えていける人の育成を目指しています。そのため、次の項目に該当する人を求めています。

1. 栄養士の資格を取得し、人々の豊かで健やかな食生活の構築に寄与したい人
2. 食や栄養、健康に関して強い興味と学習意欲をもっている人
3. 学習に能動的かつ意欲的に取り組み、幅広い教養と高い専門性を身につけたい人
4. 人間形成への努力を惜しまず、自主性や行動力、創造力、協調性を養いたい人

【志願者が入学までに身につけることが望ましい知識、技能、態度等】

食や栄養、健康に関する学習には自然科学の知識が必要なため、高校時代からそれらに関わる科目に興味を持って学習に取り組むことが必要です。また、学習の基盤となる読解力・文章力・計算力の基本を身につけることや、コミュニケーション能力を養い、協調性を磨く機会に積極的に参画する姿勢を培っておくことが大切です。

学部等名 社会福祉科子ども福祉専攻

教育研究上の目的（公表方法）：

http://www.oojc.ac.jp/web_ootani/wpcontent/uploads/2013/06/2fc5449a2038162e7b4a47d8144ceb74.pdf

福祉に対する国民の要求は、個人において異なるものであり、それに適切に対応していくためには高度の知識・技術が要求される。

社会福祉科では社会福祉学を基盤とした学修を積み重ねていくなかで、社会の変化に対応し得る社会福祉の専門的知識・技術を習得するとともに、短期大学という特性から主に直接支援にあたる職員の養成をめざして、教育研究を行っている。

●子ども福祉専攻

子ども福祉専攻は、建学の精神にうたわれている仏教精神に基づき、一人ひとりの違いを大切に受け止めながら「ともに生きる」ことを保育・教育の場で実践できる保育者（保育士・幼稚園教諭、保育教諭）の養成を目標とする。そのために、通常の保育士・幼稚園教諭の養成課程の科目に加えて専攻独自の科目を設け、幼児教育や子育て支援の活動について地域の実情に即しながら学習し、教育と福祉を包含する総合的な視点を涵養することをめざす。

卒業の認定に関する方針（公表方法）：

<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/dpoli.pdf>

（概要）

帯広大谷短期大学は、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与します。

<社会福祉科子ども福祉専攻>

社会福祉科子ども福祉専攻では、以下に示す能力を身につけ、かつ本専攻が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士（社会福祉学）の学位を授与します。さらに、本専攻が定める要件を満たすことにより、保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、社会福祉主事任用資格を取得することができます。

(1) 児童家庭福祉・保育・幼児教育に関する基本的な理論や知識を身につけている。

(2) 子どもの心身の健康な発達に関する理論や知識をもとに、子どもの発達に合わせた適切な接し方や援助方法を選ぶことができる。

(3) 保育内容とその指導法についての基礎的な知識を習得し、遊びなどの具体的な活動を計画することができる。

- (4) 言葉のつかい方、歌や楽器の活用、造形制作の方法、身体技能などの表現の技術を使って、保育に必要な基礎的な表現の活動ができる。
- (5) 教材を研究し、子どもの姿に合わせて活動を工夫しようとする姿勢を備えている。
- (6) 教養を広げるとともに、他者との協調的な関係を通して目標を同じくする者の共同体に貢献しようとする姿勢を持っている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/cpoli.pdf>）

（概要）

帯広大谷短期大学では、建学の精神並びに教育理念に基づいた人間を育成する教育環境を提供するために、以下のように教育課程を編成しています。

1. 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために「教養科目」を配置します。また、学生が、専門的な知識と技能を体系的に学び、高度で多様な専門性を身につける「専門科目」を配置し、適切に選択・受講ができることを目指します。
2. 学生が幅広い視野に立ち、現代社会を捉え直すことができる知識と理論を提供する「講義科目」と学生が主体的に学ぶ能力を身につけることで学びを深め、それらを総合的に実践する「演習科目」と「実習科目」の3つを効果的に配置し、本学の目指す人間教育を展開します。

＜社会福祉科子ども福祉専攻＞

社会福祉科子ども福祉専攻では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、子どもの福祉と幼児教育に貢献できる社会人と

しての基礎的な能力を身につけるため、以下に示す方針によりカリキュラムを編成しています。

- (1) 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために共通教養科目（初年次教育、キャリア教育を含む）を設置する。
- (2) 児童家庭福祉・保育・幼児教育に関する基本的な理論や知識の習得のために、教職の意義等に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、保育の本質・目的に関する科目を設置する。
- (3) 子どもの心身の健康な発達に関する理論や知識とそれに基づく教育や援助の方法を学ぶために、教育の基礎理論に関する科目、保育の対象理解に関する科目を設置する。
- (4) 保育内容とその指導法についての知識の習得と活動の計画に関して学ぶために、教育課程および指導法に関する科目、保育の内容・方法に関する科目を設置する。
- (5) 保育の表現の技術の習得のために、教科に関する科目、保育の表現技術の科目を設置する。
- (6) 以上のカリキュラムで培われる知識、技能等の児童家庭福祉・保育・幼児教育の現場における主体的・実践的な展開の経験と、協調性と共同体への貢献の姿勢の涵養のために、特別演習、教育実習科目、保育実習科目および教職実践演習（総合演習）の科目を設置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/apoli.pdf>）

<p>(概要)</p> <p>帯広大谷短期大学は、確かな教養の上に、社会人、職業人として自立し、社会の発展に寄与するとともに、「支えあい共に生きる社会」実現への担い手となる人を育てることを目標としています。</p> <p>本学では、この目標の実現に向けて多様な入試制度を通して、次のような人を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本学の教育を受けるにふさわしい基礎的な学力、適性及び目的意識を持つ人 2 自らが、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を求め、高める努力をしようとする人 3 地域社会の発展に貢献できるよう、各学科の専門分野の知識や技能・技術を身につけることに意欲を持つ人 <p>●社会福祉科子ども福祉専攻（社会福祉学）</p> <p>【求める人間像】</p> <p>社会福祉科子ども福祉専攻は保育士・幼稚園教諭・保育教諭の養成を目指しています。そのため、次の項目に該当する人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉、幼児教育、障がい児・者福祉の現場の教育者や援助者を志す強い意欲をもっている人 2. 本学、学科、専攻の理念を踏まえて積極的に本専攻を志願している人 3. 本学での授業の受講や実習等で必要となる基礎的な学力、理解力、学習習慣、学習意欲などがある人 4. 対人的な教育・援助の関わりで他者と良好な関係を築くために必要な自立性、協調性、基本的なマナー等を身につけている人 <p>【志願者が入学までに身につけることが望ましい知識、技能、態度等】</p> <p>保育士、幼稚園教諭、保育教諭の職務内容とその仕事の社会的な意義について、初歩的な知識を持っていることです。さらに、自分の進路について情報を集めたり体験したりするために、ボランティア活動や体験学習、説明会等に積極的に参加していることです。また、人前で話したり歌ったり踊ったりする経験や、ピアノ演奏、絵画制作等の技術を身につけるための経験を積極的に求める姿勢を培っておくことです。</p>
--

<p>学部等名 社会福祉科介護福祉専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： http://www.oojc.ac.jp/web_ootani/wpcontent/uploads/2013/06/2fc5449a2038162e7b4a47d8144ceb74.pdf）</p>
<p>福祉に対する国民の要求は、個々人において異なるものであり、それに適切に対応していくためには高度の知識・技術が要求される。</p> <p>社会福祉科では社会福祉学を基盤とした学修を積み重ねていくなかで、社会の変化に対応し得る社会福祉の専門的知識・技術を習得するとともに、短期大学という特性から主に直接支援にあたる職員の養成をめざして、教育研究を行っている。</p> <p>●介護福祉専攻</p> <p>介護福祉専攻では、高齢者及び障がいをもつ方の心身の状況に応じ、エビデンスに基づいた尊厳あるケアを実践できる介護福祉士の養成をめざす。そのなかで建学の精神に基づき人として支え合い生きることについて考え、多様な価値観を受け止められる感性と教養を身につけることを大切にしている。また、身体的ケアにとどまらず精神的ケア（相談支援）も実践できる介護福祉士、さらに住環境や地域連携まで幅広く生活支援を考えられる介護福祉士の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/dpoli.pdf）</p>

(概要)

帯広大谷短期大学は、建学の精神並びに教育理念のもとに策定された学科並びに専攻・課程の学位授与方針に基づき、学則に定める所定の単位を厳格な成績評価のもと修得した学生に対して短期大学士の学位を授与します。

<社会福祉科介護福祉専攻>

社会福祉科介護福祉専攻では、以下に示す能力を身に付け、かつ本専攻が定める卒業要件を満たすことにより、短期大学士（社会福祉学）の学位を授与します。さらに、本専攻が定める資格要件を満たすことにより、介護福祉士国家資格（受験資格）、社会福祉主事任用資格を取得することができます。

- (1) 人間や社会に関する知識を身につけている。
- (2) 介護福祉に関する知識及び介護技術を身につけている。
- (3) 人間の心身に関する知識を身につけている。
- (4) 医療的ケアの知識と技術を身につけている。
- (5) 幅広く社会福祉に対する理解や見識が持てる。
- (6) 福祉社会の構築に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/cpoli.pdf>）

(概要)

帯広大谷短期大学では、建学の精神並びに教育理念に基づいた人間を育成する教育環境を提供するために、以下のように教育課程を編成しています。

1. 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために「教養科目」を配置します。また、学生が、専門的な知識と技能を体系的に学び、高度で多様な専門性を身につける「専門科目」を配置し、適切に選択・受講ができることを目指します。
2. 学生が幅広い視野に立ち、現代社会を捉え直すことができる知識と理論を提供する「講義科目」と学生が主体的に学ぶ能力を身につけることで学びを深め、それらを総合的に実践する「演習科目」と「実習科目」の3つを効果的に配置し、本学の目指す人間教育を展開します。

<社会福祉科介護福祉専攻>

社会福祉科介護福祉専攻では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、福祉的支援を必要とする人々や地域への根拠に基づいた支援方法を身に付けるため、以下に示す方針によりカリキュラムを編成しています。

- (1) 学生が、建学の精神を具現化し豊かな人間性を涵養し、総合的な思考力や表現力を培い、地域社会に貢献する人間となるために共通教養科目（初年次教育、キャリア教育を含む）を設置する。
- (2) 介護実践の基盤となる教養や倫理的態度の涵養のため、専門教育科目に領域「人間と社会」を設置する。
- (3) 福祉的支援の対象者の尊厳の保持や自立支援の考え方を踏まえ生活を支える知識・技術の修得のため、専門教育科目に領域「介護」を設置する。
- (4) 多職種協働や適切な介護の提供のため、専門教育科目に領域「こころとからだのしくみ」を設置する。
- (5) 医療職との連携のもと、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術の修得のため、専門科目に領域「医療的ケア」を設置する。
- (6) 幅広く生活支援を理解するため、地域連携や社会福祉研究関連の科目群として介護福祉関連科目を設置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.oojc.ac.jp/cms/wp-content/themes/ootani/pdf/idea/apoli.pdf>）

(概要)

帯広大谷短期大学は、確かな教養の上に、社会人、職業人として自立し、社会の発展に寄与するとともに、「支えあい共に生きる社会」実現への担い手となる人を育てることを目標としています。

本学では、この目標の実現に向けて多様な入試制度を通して、次のような人を積極的に受け入れます。

- 1 本学の教育を受けるにふさわしい基礎的な学力、適性及び目的意識を持つ人
- 2 自らが、幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を求め、高める努力をしようとする人
- 3 地域社会の発展に貢献できるよう、各学科の専門分野の知識や技能・技術を身につけることに意欲を持つ人

●**社会福祉科介護福祉専攻（社会福祉学）**

【求める人間像】

社会福祉科介護福祉専攻は地域の福祉的課題の解決や生活課題を有する人の支援のために必要となる知識と技能、倫理的態度をもった介護福祉士の養成を目指しています。そのため、次の項目に該当する人を求めています。

1. 介護福祉士の資格を取得し、介護福祉分野で社会貢献したいという意思をもつ人
2. 多様な価値観や文化を持つ他者に誠実な関心を寄せ、相手の立場に立って理解しようとする人
3. 地域・社会の問題や事象に幅広く関心をもち、多角的な視点で思考し行動しようとする人

本専攻は講義において、地域・社会や介護が必要人とその生活などについて理解を深め、演習や実習において、根拠に基づき、尊厳を保持し自立支援に向けた介護を、計画的に実践・評価する介護実践力を修得することを目標としています。その中で介護福祉専門職としての誇りと責任をもち、研鑽し続ける態度を身につけることを目指しています。

【志願者が入学までの身につけることが望ましい知識、技能、態度等】

介護福祉専門職は対人援助の専門職であり、チームケアや多職種連携も必要とされるため、幅広い知識や技能が必要になることから、高等学校での学習における全科目の基本的な学力や、課外活動も含めて主体性・協調性・コミュニケーション能力を培っておくことです。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
地域教養学科	—	1人	2人	0人	0人	0人	3人
生活科学科	—	1人	0	3人	1人	2人	7人
社会福祉科	—	7人	3人	3人	0人	0人	13人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				89人			89人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.oojc.ac.jp/?page_id=8004					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
地域教養学科	40人	23人	58%	80人	61人	76%	0人	0人
生活科学科	40人	32人	80%	80人	58人	73%	0人	0人
社会福祉科	100人	90人	90%	200人	185人	93%	0人	0人
合計	180人	145人	81%	360人	304人	84%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
地域教養学科	22人 (100%)	2人 (9%)	18人 (82%)	2人 (9%)
生活科学科	25人 (100%)	5人 (20%)	20人 (80%)	0人 (0%)
社会福祉科	90人 (100%)	0人 (0%)	86人 (95%)	4人 (5%)
合計	137人 (100%)	7人 (5%)	124人 (91%)	6人 (4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>授業概要（シラバス）について、当該年度のカリキュラムが確定後の12月下旬頃から、各科目担当者が作成を開始する。作成に当たっては、教務委員会が作成する『シラバス作成要領』に従うこととし、「授業の方法」「単位数」「時間数」「科目概要」「授業計画」「到達目標」「評価方法」「準備学習について」「試験・課題に対するフィードバックの方法」等をWebシラバスシステム上に入力する。教務委員会による点検を経て、3月中旬から下旬までにすべて一般公開することとしている。</p> <p>【 http://www.oojc.ac.jp/?page_id=10010 】</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>各授業科目について、担当者は、授業概要（シラバス）であらかじめ履修者に提示した「評価方法」に基づき成績評価を行う。算出された評点は、学則の規定に従って「S」から「D」の5段階に表し、「C」以上の評価に対して単位を授与する。さらに、その評点を用いてGPAを算出している。</p> <p>また、学生の学修意欲確認の取り組みとして、前期および後期の成績配布時に合わせ学科担任等による面談を実施しているほか、ひとつの科目を3回欠席した履修学生については、科目担当者から学生の所属学科および事務局教務担当者に連絡し情報が共有され、その後担任等の教員が面談等を実施している。</p> <p>卒業の認定に関する方針として、ディプロマ・ポリシーを学則で定めており、ホームページには、学則の公表の他、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」としても単独で掲載している。また、学生向けには、『学生便覧』でも公表している。</p> <p>各学科・専攻ではこのディプロマ・ポリシーをふまえカリキュラムを構成し、シラバスを作成し、成績評価を行い、卒業判定を経て短期大学士の学位を授与する。</p> <p>卒業の要件については、学則で各学科・専攻ごとに教養科目、専門科目の最低取得単位数を規定しており、また、卒業判定に関しては、教務委員会で取得単位数を確認して卒業判定資料を作成し、教学マネジメント会議の承認後、最終的に教授会（卒業判定会議）によって卒業が認定される。</p>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	地域教養学科	6 2 単位	有	1 学期 32 単位
	生活科学科	6 2 単位	有	1 学期 32 単位
	社会福祉科 子ども福祉専攻	6 2 単位	有	1 年間 60 単位
	社会福祉科 介護福祉専攻	6 2 単位	有	1 学期 32 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : http://www.oojc.ac.jp/?page_id=60

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	地域教養 学科	520,000 円	200,000 円	499,100 円	
	生活科 学科	520,000 円	200,000 円	529,100 円	
	社会福祉 科子ども 福祉専攻	520,000 円	200,000 円	524,100 円	
	社会福祉 科介護福 祉専攻	520,000 円	200,000 円	524,100 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生の修学に係る支援の取組として、学生生活全般に関しては学生支援委員会および学務課学生係が中心となってこれを行っており、学生の健康管理に関すること、奨学金や災害事故の保険手続き、学生行事、その他福利厚生に関すること等の窓口となっている。

また、教員によるオフィスアワーとして研究室を開放し、学生の修学に関する相談を受け入れている。

経済的な状況等により学納金を期限までに納入できない場合には、所定の手続きを行った上で、分納若しくは延納を行うといった制度を整備している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

進路選択に係る支援に関してはキャリア支援委員会およびキャリア支援課が中心となって行っている。在 student と卒業生の就職活動支援と大学や短期大学、専修学校等への進学支援を行っている。就職活動支援は職業安定法を遵守し、本学就職斡旋内規に従って、求人情報の収集や公開、就職内定に向けて順序良く必要な知識や態度を身に付けるための就職ガイダンス等の就職指導を行っている。また、教員による編入学対策講座が行われており、進路に関する悩みや不安に早期の対応をして、学生に寄り添った声掛けや事例にあった適切なアドバイスをするように心掛けている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等に係る支援に関しては、保健室と学生相談室を設置している。保健室には看護師、学生相談室には専門の支援員を配置し、学生の心身の相談等に応じる体制を整備している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : http://www.ojic.ac.jp/?page_id=60

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	帯広大谷短期大学
設置者名	学校法人帯広大谷学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		66人	52人	67人
内 訳	第Ⅰ区分	39人	35人	
	第Ⅱ区分	15人	17人	
	第Ⅲ区分	12人	-	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				67人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	-
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	-

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。